

第5章

ゼロカーボンシティの実現に向けた戦略

将来ビジョン

第5章

将来ビジョン

圏域全体で「ゼロカーボンシティ」を実現するため、長期目標年度である 2050（令和 32）年度における将来ビジョンを次のとおり設定しました。

＜ビジョン1＞

『公共交通機関が充実し、歩いて行動できる脱炭素でコンパクトなまち』

- ・バスや路面電車などの使いやすい公共交通機関がネットワーク化され、地域住民や観光客にとってまち歩きが楽しめる魅力にあふれ、電気自動車などのクリーンエネルギー自動車をはじめとするエコカーが走っている。
- ・自然環境と調和しつつ、都市機能がコンパクトに集約された市街地が形成されている。
- ・圏域の半分以上を占める豊かな森林の持つ CO₂ の吸収や大気浄化などの公益的機能が維持されている。

＜ビジョン2＞

『エネルギーの有効活用が進み、環境と経済がともに伸びるまち』

- ・太陽光や太陽熱などを利用した機器の設置やバイオマスの利用促進、蓄電池の導入によるエネルギー・マネジメントなど、地域特性に応じた再生可能エネルギーの有効活用が最大限行われ、自立・分散型の「エネルギー版地域循環共生圏」が構築されている。
- ・地場企業が、環境・エネルギー産業分野などへ新規創業や新規ビジネスとして進出し、持続的に成長している。

＜ビジョン3＞

『大量生産・大量消費から脱却し、省資源・循環型へ転換したまち』

- ・地域住民や事業者に「もったいない」の心や「4R」の輪が広がり、日常生活や事業活動からのごみの排出が少ない資源循環型のまちが形成されている。
- ・消費者と事業者の双方が食品ロス削減に恒常的に取り組み、やむを得ず発生した未利用食品はフードバンク団体等に寄付して有効的に利用するなど、食品廃棄が少ない資源循環型のまちが形成されている。

<ビジョン4>

『環境に配慮した行動を実践するまち』

- ・「だれでも」「いつでも」「かんたんに」実践できる環境行動にみんなで取り組み、省エネ行動や環境経営などが定着している。
- ・農水産物の生産・流通・消費の各過程において、環境配慮への意識高揚が見られ、地域の「食」を活かした地産地消が進んでいる。
- ・環境教育・学習の浸透により、自ら考え、行動する地域住民が増え、住民力・地域力にあふれている。



図 2050年ゼロカーボンシティの実現に向けた将来ビジョン

長崎市の2050（令和32）年脱炭素社会『ゼロカーボンシティ長崎』の実現に向けて ～あらゆる主体があらゆる場所で脱炭素化行動に取り組んでいるまち！～



